

## 2001～2002年度「秋のライラ」報告

地区青少年活動委員会

委員長 有賀 一夫 (大阪咲洲)

東大阪西ロータリークラブ

会長 谷村 佳昭

実行委員長 梅澤喜八郎



今年度の「秋のライラ」は、10月6日(土)の大阪産業創造館での薬師寺副住職、安田暎胤師の基調講演「君の輝きが明日を創る」を皮切りに、その後、舞台を昨年同様能勢の大阪府立総合野外活動センターに移し2泊3日の研修活動を行いました。

研修プログラムについては、上級は活動センターの長谷川主幹、初級は奥主幹のご指導のもと幾度となく入念な検討、打ち合わせを行いました。私たちが特に留意したことは、「ライラ」についての十分な理解も得られないまま、様々な事情でどちらかといえば参加させられたという思いでいる研修生たちが、研修を終えたあとは、喜びと満足感をもってこの体験を語ってくれるようなものにしたいということでした。また、この機会が、青少年たちにはロータリークラブとロータリアンについて、少しでも理解を深めるものであり、私たちロータリアンにとっては、現代の若者の本音の姿に直に触れ、そして互いに交流でき共感できるものでありたいというの願いのひとつでした。

初日の体育館でのいくつかのゲームを使った「人間関係トレーニング」でこれから始まる共同生活の約束事やそのなかでの各々の役割を体感した研修生たちは、その夜の鍋物料理、翌日のストーンペインティング、ウォーキングOL競技、夕方の野外での客と調理人に別かれてのバーベキュー大会、火を囲んでのスタンプ大会とプログラムを追うごとに研修生たちの表情から硬さがとれ、和やかで生き生きしたものになってきました。また、「写経」には私たちの予想以上に関心を示し、外国人留学生たちも熱心に取り組んでくれました。

最終日のテーマ討論発表会での発言や、その後行った何人かの研修生たちへのヒヤリングから、私たちは所期の目的をある程度果たし得たものと安どと喜びを感じています。ご指導いただいた活動センターの方々、サポートして下さった活動センタースタッフ、チームライラの皆さん、またご協力いただいた多くの皆さんに改めて感謝し、御礼申し上げます。

ただ残念であったのは、登録数がロータリアン308名、研修生が上級、初級併せて70名と例年に較べてかなり低かったことです。10名以上、なかには30名という多数のご登録をいただいたクラブがある一方、一人の登録もいただけなかったクラブが21クラブもあり、そのなかにはRAC提唱クラブが8クラブ含まれています。RYLAとRACの関係、登録参加のあり方について今後行事主催者として一考の必要があるようです。